

平成28年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子どもの姿や教育内容について知っているか。	A	92%の保護者が「たよりや各種活動の参観などを通して、学校が目指している子どもの姿や教育内容がわかる」と回答しており、保護者の関心が学校にしっかり向けられていると感じる。また、92%の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答しており、教師と生徒との信頼関係が構築されていると考えられる。今後も、生徒、保護者との円滑なコミュニケーションを継続させたい。	・よいことをもつと地域に発信していったほうがよい。 ・地域として支えられることがあれば言ってもらいたい。 ・行事等を精選し、生徒との時間を確保してほしい。 ・大人の姿勢を見て子どもが自然に育つのがよい。 ・学年便り等で学校の様子がよくわかる。
		先生は子どものことを理解して指導にあたっているか。	A		
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)	よくわかる授業の実践	生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	A	84%の生徒は「授業で学習した内容がわかる」と回答している。教師が基礎・基本を定着させるための様々な手立てを講じたり、表現力や思考力を伸ばすために言語活動を意図的に取り入れたりして、「わかる授業」を行っていることの表れであると考えられる。それに対して「すすんで学習している」と回答した生徒の割合は77%とやや低い。生徒が自ら学ぶという姿勢を身につけさせるために、学習意欲を喚起する授業をつくったり、個別指導を充実させたりしていきたい。	・学習内容の理解は、得手・不得手も含めてよい結果が出ている。これからも丁寧に指導してほしい。 ・登校時に地域の方が声掛けをしてくれる。地域と学校で育ててもらっている。
		生徒は、進んで学習しているか。	B		
		生徒は、住んでいる地域のことに興味があるか。	A		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	いのちの教育(主体性)の実践	生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	A	行事に向けて、クラスの練習では、生徒が主体的に活動する場面が多く見られた。教師が生徒の活動をしっかり認めていくことで、生徒は自分の良さを確認したり、所属感や満足感を得たりすることができている。さらに主体性を育てるためにも、活動によっては生徒に思い切った任せる部分をつくり、小刻みな目標を与えながら達成感を味わわせるようにしたい。	・生徒は自分のよいところに気がついている。成長している証。進路に向かう気持ちにもつながっている。
		生徒は、目標を持ち毎日の学校生活を送っているか。	B		
	いのちの教育(共生する態度)の実践	学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	A	「ルールを守り協力する雰囲気がある」「学校が楽しい」と回答している生徒が90%以上おり、生徒同士の中で温かな人間関係がはぐくまれ、それが学校全体の良い雰囲気をつくっている。しかし、一方では欠席率がやや高いことが課題となっている。全体の雰囲気の良いを維持すると共に、一人一人の生徒や家庭に寄り添って支援していく必要がある。今後も、学校と家庭が協力して生徒を育てていけるよう、連携を継続していきたい。	・不登校の解決は難しいが、改善の兆しが見えたことはすばらしい。 ・民生委員として不登校生徒の家庭を支えられるとよい。 ・行事を通して、子供がきちんとしつけられているのがわかる。 ・よいアンケート結果だが、残りの10～20%をどう改善していくかを地域とともに考えていく必要がある。
		生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。	A		
		生徒は、学校が楽しいと感じているか。	B		
	健やかでつよい心身の育成(心豊か)	心身を成長させる諸活動の実践(南中賛歌)	生徒は、あいさつや返事がしっかりできるか。	A	「あいさつ・返事ができる」と感じている生徒が96%おり、本校の誇りと感じていることが伝わってくる。校外に出てこのことが実現できるよう、さらにあいさつの輪を広げていけるとよい。南中賛歌の一つ「そっとボランティア」は、校外でのボランティア活動でなくても、普段取り組めることがある。「困っている友だちに声をかける」など、身のまわりのことに気を配り、学級で、部活動で、生徒会活動で、何か人のためになる活動をさせたい。「感じて動ける生徒」を育てていきたい。
生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。			B		
生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。			B		
<学校関係者評価を受けてのまとめ> ○生徒と教師、地域や保護者と良い関係をつくることができ、生徒のより良い成長につながっていると考えられる。地域や家庭の力を借りてさらに学校をよくしていく方策を考えていきたい。 ○「授業がわかる」ところが生徒指導の第一歩と考えられる。「学校づくりは学級づくり、学級づくりは授業づくり」を基本理念に『いのちの教育』の推進に努めていきたい。 ○不登校生徒への対応を今後も続け、一歩前進できるようにしていきたい。また、消極的な評価をしている10～20%程度の生徒にも積極的にいかかわり、不登校等を未然に防ぐようにしていきたい。 ○ボランティアで活躍した生徒を賞揚するとともに、今後も、よい体験、役に立つ経験を積極的に仕組み、さまざまな活動を通して自己肯定感や自尊感情を育てていきたい。					